

影響がどのように現われるかが最も注目される。農業面ではそのうまみを最高度に生かすことを基調に、北部の山麓地区では、米・果樹・菊・茶等、一方南部の畑地区では養蚕・畜産・たばこ・果樹・野菜等、また西部の近郊畑作地区では野菜・畜産・果樹等が重点となる。また、県下に先駆けた農協の広域合併では、さらに一步を進めた広域化による体制の強化に大きく期待したい。

7 鹿本郡農業地帯



概況

この地帯は既に県下有数の高いレベルの農業を形成し、とりわけ施設園芸の躍進が著しく、近年、西瓜とメロンにおける名声では、全国的に斯界の注目を集めるに至っている。

ここでは、林野の割合の高い県境山麓地区への対策、南部から中部にかけて予想される優良農用地のスプロール、施設利用型農業への移行に伴う用水需要の高まり等々が特に大きな課題となっている。

振興方向

今後は恵まれた立地条件と高い生産技術を背景に、大きく資本集約的な施設利

用型農業の振興が考えられ、植木畑台地では野菜を中心に、畜産・果樹等、一方菊池川中流地区では米を基盤に野菜・畜産・果樹・養蚕・たばこ・花卉・樹芸等の拡大、また県境山麓では立地のうえで若干のハンデはあるが、米を基盤に果樹・養蚕・畜産・野菜・花卉・特用作物等を重点に振興をはかる。この場合特に菊池台地かんがい排水事業による用水の確保、さらに農協の優れた活動をさらに一步を進めての広域的合併による管理体制の強化等が望まれる。

8 菊池北部農業地帯

概況  
菊池川沿いに開かれた肥沃な水田と、阿蘇外輪山の裾野から西に向っての広大な畑台地を背景に、逞しい農家の意欲に支えられて、県下有数の農業地帯としての発達を続けている。

ここでは東北部の広大な山間部における農業対策、また立地的には恵まれながらも用水不足の故に、十分な機能の発揮を阻まれている花房台地やうてな台地への対策等は、当面している最も大きな課題であろう。



振興方向  
この地帯では、その自然的条件から東部の山麓地区と西南部の平坦地区に大別され、米を基盤に畜産・野菜・たばこ・茶・栗・養蚕等を重点として振興をはかる。この場合、竜門ダムにかかる菊池台地かんがい排水事業は酪農・野菜・茶等の複合経営の一層の安定と高度化をもたらすものとして期待される。また産地体制の確立と流通市場への対応を確実にするため、農協の広域合併が重要である。

9 菊池南部農業地帯



概況

熊本市の東部に広がるこの地帯では、近年、都市化や空港・高速道路の開設など激しく変貌を続けている。また農業面では畑作のウエイトが高く、戦後の酪農、近年の野菜など動きはかなり活発である。ここでは、都市化をめぐる農用地のスプロール、地価の高騰、用水不足による農業振興の阻害、選択的拡大の遅れ、多岐にわたる流通機構等々、今後の飛躍のため解決を必要とされる問題点もまた多様である。

振興方向

総じて都市に近接する条件と、用水対策の好転を背景に、農業の飛躍が期待される。

すなわち、西部では都市の膨張と地下の高騰を反映して、施設本位の生鮮農産物の生産のウエイトを高める。また東部では、二つの水資源開発を支えとして畜産・野菜・養蚕・栗・茶・たばこ等を重点に振興をはかる。

この場合、菊池台地および高遊原台地への用水供給、土地利用の調整、流通機構の整備、農協の広域合併等は特に重要な課題である。

10 上益城郡平坦農業地帯



概況

熊本市の東南部に隣接し、総じて都市の膨張を大きく被る地帯である。産業の中心をなす農業は、戦後は米を中心に緑川筋の酪農、近郊の野菜、山麓のみかん・乙女台地中心の樹芸・花卉、高原の茶業と活発である。

しかしながら、ここでは緑川支流のうち加勢川・矢形川・木山川・赤井川等では改修の遅れが著しく、近時洪水量は

増加の傾向にあって、例年、これらの河川の氾濫によって農業の振興は大きく阻まれている。

振興方向

都市近郊としての立地を活かすことを基本として、水田平坦地区では米を基盤に野菜・畜産・たばこ等、一方、益城台地では野菜が主となり、また乙女台地では養蚕と樹芸等、さらに山麓地区ではみかん・畜産・養蚕・茶等を重点に振興をはかる。

この場合、水田地区の河川改修による治水の促進が不可欠の要件となるほか、農用地のスプロールの防止、農協の広域、合併による管理体制の確立等が強く望まれる次第である。

11 八代農業地帯

概況  
県南における産業経済の要衝をなすこの地帯は、球磨川を中心とする河川の沖積や干拓による平坦部と東部の山間部からなるが、山間には問題を残しながらも、総じて高度の農業の形成をみて、県下有数の地帯を確立している。

しかしここでは、総面積の七割の林野



を背景とした東部山間地区への対策、都市化工業化の進行に伴う農用地のスプロール、農協合併では未だかなりの遅れがみられることなど、当面する問題点もまた大きいものがある。

振興方向

平坦地区では、米を基盤に草・野菜・柑橘・花卉等を重点とし、一方、山間部では、その立地の特質を踏まえて茶・養蚕・野菜（しょうが）・柑橘等を重点として振興をはかる。

この場合、現在実施中の農地集団化、用排水分離、農道整備等の土地基盤の整備とともに、産地体制の確立および流通市場への対応を強化するため、農協の広域合併による管理体制の拡充強化が大きな課題である。

12 阿蘇中部農業地帯

概況  
阿蘇カルデラに開けた阿蘇谷と、東部外輪に連なる広大な畑台地から成るこの地帯の農業は、古くから米と畜産を柱として営まれ、近年、草地畜産の伸びや畑台地の養蚕と野菜の定着が特筆される。

ここでは基盤整備の著しい遅れ、旧態依然とした牧野利用、農用地および牧野のスプロール、農協合併の遅れなどが、問題点として横たわっている。

振興方向

阿蘇谷では、水田の基盤整備と牧野の草地改良を踏まえて、米を基盤に肉用牛、肉牛・酪農等を拡大し、一方、東部畑台地では確実な安定をみた野菜および養蚕や肉用牛・肉牛等を基幹に拡大す



る。この場合、阿蘇谷四千百ヘクタールの基盤整備および大規模草地改良事業等の基幹事業の実施と、農協の広域合併を急ぎ、そしてそのうえに立ってかかっての稲作改善の成果に示されたバイタリティーの再度の発揮による躍進に期待したい。

13 小国郷農業地帯



概況

この地帯では、その立地の特質から、農業と林業が産業の柱をなし、農業では米を基本にして、乳牛と肉牛の導入による。畜産の高原野菜の振興など、農業振興への歩みはきわめて積極的である。

しかしここでは、耕地や集落が山間に点在するため基盤整備が進めにくいこ

と、また農業生産の選択的拡大の成果は顕著であるが、作目により産地規模の拡大や量産の確保を中心に産地体制の面に問題が残されている。

振興方向

南部と北部では多少の相違はあるが、基本的には、良質の米を基盤にしたがら牧野の高度利用を前提に、牛乳、肉用牛、肉牛を対象とした畜産および高冷地野菜、養蚕、椎茸等について振興をはかる。この場合、特に基盤整備による機械化と省力化、未利用原野の高度利用、ジャージ牛乳の独特の販売戦略の展開、大根の販路の開拓、農協の広域合併の推進等が重要な課題となる。

14 阿蘇南部農業地帯

概況  
阿蘇南部のカルデラを中心としたこの地帯は、南郷谷と東部外輪上に広がる畑台地に大別される。産業の中心をなす農業は、米と畜産が定着し、また近年の色見地区での高原野菜の振興への努力は特筆される。

ここでは、複雑な地形、寒冷な気象、不便な交通等と、恵まれない条件下の山東部地区への対策、基盤整備の遅れ、交通条件整備の遅れ、予想される農用地のスプロール等々、当面する問題点もまた大きいものがある。

振興方向

南郷谷の水田地区では、米を基盤に畜産・たばこ・養蚕・野菜、一方、純然たる畑作の色見地区では、これまでの実績を背景に野菜・畜産・養蚕に陸稲を含め